ジオパークおよびジオツーリズムに関する研究とその実践

新　名　阿津子

１．はじめに

本稿は2012年度に実施したジオパークおよびジオツーリズムに関する研究とその実践について報告するものである。本年度は、レスボス島ジオパーク（ギリシャ）と本部半島ジオパーク（沖縄）で地域調査を行った。大学教育でのジオパーク活用として、プロジェクト研究２「山陰海岸ジオパークーバーチャルジオツアーの開発ー」を行った。さらに、ソーシャルメディアでの議論から「ジオ談会」の実施に至った。

２．事業内容

２．１．地域調査（ギリシャ・レスボス島、沖縄県本部半島）

本年度、レスボス島ジオパーク（ギリシャ）、本部半島ジオパーク構想（沖縄）における地域調査を行った。前者は2011年２月に山陰海岸ジオパークと姉妹提携を結んだジオパークであることから調査対象地域として選定し、鳥取県環境学術研究等振興事業からの研究費を活用した。後者は、ジオパーク導入前後の地域変容を検討するための調査を行っている。本部半島はジオパークを目指す地域の中でも既存の観光地として全国的な知名度がある地域であり、今後、ジオパークが導入されることにより地域的変化を経験すると考えられるため、調査対象地域として選定した。本部半島では、観光動態、各種施設およびガイド団体の立地等を調査し、次年度継続調査を行う予定である。以下、レスボス島での調査について概略を示す。

「山陰海岸ジオパークの地域間連携の推進に関する研究」の一環として、ギリシャのレスボス島ジオパークの調査を行った。現地では、エーゲ大学主催のサマースクール「Geoparks: Natural heritage protection and management, sustainable tourism and local development」に参加し、現地及び各国の参加者をジオパークとそのマネジメントに関する議論を行い、巡検では自然歴史博物館やレスボス石化林公園、火山露頭、断層、教会、温泉施設、窯元等を見学した（写真１、写真２）。

写真１　石化林公園のセコイア（2012年９月新名撮影）

写真２　マンタマドスの窯元（2012 年 9 月新名撮影）

レスボス島ジオパークは世界ジオパークネットワークが設立された 2004 年から、世界ジオパークとして活動するジオパークである。当初は、島西側シグリにあるレスボス石化林公園を中心とした地域がジオパークのテリトリーであったが、2012 年 9 月から全島がジオパークとなった。なお、レスボス島は人口約 10 万、中心都市はミティリニであり、主要産業は農業（オリーブ）である。東西での経済格差を抱えていたレスボス島では、シグリに自然歴史博物館および石化林公園が整備され、ジオパークでのプロモーションにより、観光客が増加し、宿泊施設や飲食店、小売店が 400 店舗ほど新規立地し、ジオパークが地域経済の活性化に寄与している。

日常的な交流は地理的距離およびコスト面で難しいところがあるが、姉妹提携を締結したジオパークとして、ジオパーク内でのプロモーションを推進する必要があると考える。そこで、レスボス島の研究成果については、後述のジオ談会やジオカフェ、公開講座等で報告し、情報共有およびレスボス島のプロモーションを進めている。

２．２．大学教育でのジオパーク活用

2012 年度後期の本学プロジェクト研究２において、山陰海岸ジオパークを対象としたバーチャルジオツアーを開発した。本プロ研へは大学１年生の８名が受講した。まず、学生を複数のグループに分け、文献や web を通じて事前に場所に対する知識を獲得し理解した上で、鳥取市内の主要なジオサイトである鳥取砂丘、白兎海岸、湖山池について実際、現場でガイドの説明を受けた後、各グループが景観説明を行った。

次に、4 名ずつの 2 グループに分け、それぞれのチームでバーチャルジオツアーを開発した。その間、海岸線と山間部に分かれ山陰海岸ジオパーク広域巡検を行い、他地域の事例を学び、山陰海岸を構成する多様な景観やその成り立ちについて学習した。2 グループの内、一つは大学生を対象とした広域ジオツアーを、もう一つは中学生を対象とした鳥取砂丘ジオツアーを作成した。

大学生を対象とした広域ジオツアーは、鳥取砂丘、湖山池、白兎海岸、玄武洞と巡検で訪れた場所で構成されていた。多鯰ヶ池の「お種伝説」、湖山池の「湖山長者」、白兎海岸の「因幡の白兎」の神話・伝承を取り入れながら、場所の紹介と成り立ちについてのツアーを作成した。中学生を対象とした鳥取砂丘ジオツアーでは、鳥取砂丘を構成する 4 つの砂丘地の説明やアクティビティの紹介、砂とドライヤーを使った風紋発生実験を作成した。

本研究成果は１月に開催された全学の研究発表会で発表した。（写真３）さらに、研究成果を地域へ還元するため、3 月に湖山池情報プラザで開催されるジオカフェにて報告する予定である。

写真３　研究発表会での風紋実験の様子（2013 年 1 月柿本撮影）

２．３．ソーシャルメディアから始まった「ジオ談会」

山陰海岸ジオパークは 3 府県 6 市町にまたがる広域なジオパークであることから、研究者やジオガイド、行政職員、各地のジオパークスタッフ、民間事業者等はソーシャルメディアを活用して日常的なコミュニケーションを取っている。そこでの議論から、研究者及び地域でジオパーク活動に携わっている人を対象とした「ジオ談会」の開催が決定され、2012 年 10 月 13 日に湖山池情報プラザにて「山陰海岸ジオストーリーを作るための問題点（兵庫県立大　先山･松原）」と「ジオパークを考える－ギリシャ･レスボス島ジオパークの報告（新名）－」の研究報告を行った。今後、兵庫県立大学と連携を取りながら、本研究会を継続して開催する予定である。

３．次年度について

次年度は引き続き、レスボス島および本部半島での調査を行う。地域連携事業では、湖山池で都市緑化フェアが開催されるため、それに合わせてジオパークとしての情報発信やイベント開催を兵庫県立大学と連携して行う予定である。また､ジオガイド養成や月 1 回のジオカフェを通じて、地域に根差した人材育成とジオパークの活用を行っていく。さらに、日本ジオパークにおいて無形文化遺産に関するワーキンググループが立ち上がったので、無形文化遺産のリスト化やそれらの保全保護、ジオ活用について議論を進める予定である。